

治療薬レジデントマニュアル

監修の序

本書は、研修医の先生方が、日常診療において診断から治療へと迅速に進められるように、最低限身に付けるべき知識と薬品を系統的に整理した書籍です。さらに、いつでも持ち歩いて利用していただけるようにポケット版としています。

本書は、3章から構成され、第Ⅰ章では、頻度の高い緊急を要する症状を取上げ、診断および対応のポイントを簡潔に記載しています。絶対に見落としてはいけない事項や絶対に使ってはいけない薬の項も設けています。第Ⅱ章では、臓器・疾患別に薬の使い方の基本、治療ガイドライン、そして実際に用いる薬品の解説を行っています。第Ⅲ章では、抗菌薬、抗癌薬、消炎・鎮痛薬や漢方薬など、諸科にわたって使われる薬品を取上げています。付録として、腎機能低下時や妊娠中・授乳中の薬の使い方、中和剤・アンタゴニスト、日常診療で役立つ公式なども付けさせていただいています。できるだけ一書で課題の解決につながるように努めました。

本書は、2007年より「治療薬・治療指針ポケットマニュアル」として毎年改訂を行ってきましたが、2013年度は更なる充実を目指して1年間の充電期間をいただきました。皆様からの貴重なご意見やご希望を参考にさせていただきながら、今回の改訂版づくりを進め、こうして刊行することができました。

今回の改訂の主眼は、3点です。第1点めは、タイトルの変更です。研修1年目の先生方に今まで以上にご使用いただけるよ

う、タイトルを「初期対応に自信がつく！ 治療薬レジデントマニュアル」に変更をいたしました。第2点めとして、第I章に「鑑別のために必要な検査」の項目を設け、研修医のニーズに沿った現場で必要な情報をより整理・充実させるとともに、アドバイス等を追加いたしました。さらに第3点めとして、ガイドラインの改訂・変更や新薬の追加など、前版から変更になった事項の追加・訂正を行い、新しい情報への更新を行いました。

研修医の先生方をはじめ多くの方々に、本書が益々愛され、親しまれることを心から願いながら、「治療薬レジデントマニュアル」をお届けいたします。

2014年2月

梶井英治

初版 監修の序

この書をお手にされた皆様へ。

医師になって、29年の年月が過ぎ去ろうとしています。今でも研修医の頃をよく思い出します。医師免許を取得し診療に臨んだとき、学生時代に学んだ知識では対処できないことに気がつきました。研修医になって、一つ一つの判断と決定、それに基づいた医療行為の全てに自らの責任が伴ってきたとき、学生時代に得た知識は知識に留まっていることを突きつけられたのです。研修は、この知識をまさに生きた知識に変え、そしてそれを持って安全かつ有効な診療を提供していくことを学ぶ過程であったと思い返されます。緊張の中に、生きた知識を一つ一つ積み上げていくことの喜びと安堵感に浸りながら、研修医の日々を送ったことが昨日のここのように鮮明によみがえってきます。経験したことや諸先輩の教えをせっせと書き蓄えていったこと、覚えてばかりの薬品名を頭の中で呪文を唱えるかのように繰り返し言い続けたこと、夜、病棟からの連絡に備えて枕元に幾冊かの本を置いて寝ていたことなど、今ではとても懐かしい思い出です。

研修医の皆様と接する中で、自らの研修医時代を振り返り、研修医の皆様が知識を活かし、そして知識のネットワーク化を図るための羅針盤的な本があればと思ってきました。このような思いから発し、このたび、日々研修指導にあたっておられる先生方のメッセージを濃縮し、研修医の皆様をはじめあらゆる医師が日常診療においてまさに痒いところに手が届くようなマニュアルの作成に至りました。

本書は、3章から構成され、第I章では、頻度の高い症状、緊急を要する症状を取り上げ、診断および対応のポイントを

簡潔に記載しています。絶対に見落としてはいけないことや絶対に使ってはいけない薬の項も設けています。第Ⅱ章では、臓器・疾患別に薬の使い方の基本、治療ガイドライン、そして実際に用いる薬品の解説を行っています。第Ⅲ章では、抗菌薬、抗癌薬や漢方薬など、諸科にわたって使われる薬品を取り上げています。さらに、日常よく使う輸液製剤の一覧表や配合禁忌についての付録も付けさせていただきました。また、検索項目が瞬時に見つかるように、カラー見出しにしています。各ページには、日々の診療の中から育まれた知恵がまさに詰め込まれています。しかも、持ち歩きに便利な大きさに収めさせていただきました。

本書は、診断から治療へと系統的、かつポイントを押さえた内容となっており、日常診療に必要な知識と薬品の整理・確認にうってつけの一書と思います。是非、研修医の方々のみならず、医療の第一線で多忙な日々を送っておられる医師の方々にも一度本書のページをめくっていただきたく存じます。そして、信頼できる友として傍らに置いていただき、繰り返し使い込んでいただければ望外の幸せです。

2007年2月

梶井英治